

会員各位

# 協会だよりー242(2月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

## トピックス

- 第216回月例会(講演会・新年会)の開催  
日時:平成25年2月6日(水)15時より  
場所:JXグループ六本木クラブ
- ✓ 演題①:新規チタン系ポリエステル製造用重縮合触媒の開発  
講師:田畑啓一氏(堺化学工業(株)中央研究所)
- ✓ 演題②:熱分析機器による発生ガス分析  
講師:平山泰生氏(株リガク熱分析事業部分析センター)
- 第27回JSCRA会(協会ゴルフコンペ)の予告(参加予定の方はご確保を!)  
日時:平成25年4月12日(金)  
場所:大洗ゴルフ倶楽部(茨城県東茨城郡大洗町磯浜町8231-1)  
幹事長:田原新也氏(安田薬品(株)) 幹事:小林尚道(触媒資源化協会)



- 一. 協会よりのお知らせ  
【実施済事項】  
【予定事項】
- 二. 経済産業省よりお知らせ
- 三. 二〇一二年度資源化実績の報告状況  
(2月1日現在)
- 四. 事務局より(二月度の予定)
- 五. 【雑学】おくのほそ道ツアー九二一  
酒田、吹浦、象潟

## 1. 協会よりのお知らせ

### 【実施済事項】

- ① 協会だよりー241(1月号)をメール&郵便で送信(1/8)

### 第五回運営委員会

日時:平成25年1月17日(木)15:30~17:00

場所:堺化学工業(株)会議室

議題:第216回月例会の準備、その他

出席:運営委員、第216回月例会幹事、事務局

**【予定事項】**

- ① 第216回月例会(講演会・新年会)の開催  
 日時：平成25年2月6日(水)15時より  
 場所：JXグループ六本木クラブ  
 出席：講演会・・・42名、新年会・・・51名

**2. 経済産業省よりお知らせ**

当協会の担当で有った野村秀徳課長補佐が、1月15日付けで紙業課へ移動されました。野村さんには長い間お世話になりました。担当の後任は岩田寛二さんです。よろしくお願ひいたします。

- 1月11日：経産省化学課 情報提供及び周知依頼】平成24年度エネルギー使用合理化事業者支援補助金の4次公募の開始について

**3. 2012年度資源化実績の報告状況(2月1日現在)・・・正会員のみ**

- ① 既連絡済み会員 26社
- ② 近日中に連絡予定の会員 2社
- ③ 未連絡会員 12社

※未連絡の会員は早めにご連絡ください。

**4. 事務局より (2月の予定)**

曜日	月	火	水	木	金	土
1週	1/28	1/29	1/30	1/31	1	2
	×	○	○	×	○	×
2週	4	5	6	7	8	9
	×	○	216月例会	×	○	×
3週	11	12	13	14	15	16
	建国記念日	○	×	×	○	×
4週	18	19	20	21	22	23
	×	○	×	×	○	×
5週	25	26	27	28	3/1	3/2
	○	×	×	○	○	×

事務局延べ出勤予定：10日(○；終日、△；半日、×は休日)。

5. 【雑学】奥の細道(9-2) 酒田、吹浦、象潟

酒田にて、かの有名な本間家が設立した本間美術館の見学、米の保存倉庫として活躍した山居倉庫の見学に向かいます。

【本間美術館】酒田市御成町7-7

本間美術館は新館(1960年代のモダン建築)、本館清遠閣、庭園鶴舞園より構成されています。本館と庭園は本間家四代光道が文化10(1813)年、荘内藩主酒井侯を領内巡視の折お迎えするために築造した別荘です。私たちは奥の細道の旅ですから、ここに保存されている「松尾芭蕉玉志亭唱和懐紙」(常設展示はしていない)を拝見いたしました。またこの本館は昭和天皇が皇太子のとき東北巡幸の折お迎えした場所とされています。本館の歪みのある手漉きガラス窓より観る雨の庭園も又趣があります。

【山居倉庫】

明治26年に米穀取引所の付属倉庫として建造され、現在も使われている米どころ酒田のシンボルです。倉庫の中が暑くならないよう二重屋根で且つ空気を通し、日の当たらないよう檜並木で影を作るなど工夫が凝らされています。この一部は観光施設として酒田夢の倶楽(物産館、喫茶室)、庄内米歴史資料館として活用されています。倉庫の面する新井田川の岸边には最上川の荷の運搬に活躍した小鶴飼舟が再建展示されています。



山居倉庫側の新井田川

2012.11.07



山居倉庫

2012.11.07

酒田はまた昭和の写真界の巨匠「土門拳」の生誕地で、土門拳記念館があります。ライフワークとして古寺巡礼の写真集が有名です。1974年酒田市名誉市民1号となった土門拳は自分の全作品を酒田市に贈り、酒田市はそれにこたえ1989年土門拳記念館を完成しました。平成14年6月には天皇皇后両陛下が行幸で立ち寄っています。次の機会には是非立ち寄りたい場所と思います。

芭蕉さんは酒田より吹浦、象潟へと向かっています。曾良の随行日記によれば朝より小雨となっています。私たちも酒田を立って鳥海山の麓吹浦(遊佐町)目指して北上です。バスの乗車中は小雨でしたが吹浦に着くころは風も強いながら曇り空で雨も止みました。吹浦の海岸からは荒海の先に、薄



吹浦の二見岩より飛島を望む

2012.11.07



「あつみ山や吹浦かけて夕涼み」の句碑 吹浦にて

2012.11.07

らと飛島も見えます。晴れていれば吹浦からは鳥海山も間近に見えるはずですが雲がかかって見えません。芭蕉さんも雲がかかって見えなかったようです。

句碑より国道沿いに300mほど行くと十六羅漢岩があります。鳥海山の噴火で流れ出た溶岩流の末端が海に注ぎ固化し、吹浦溶岩と呼ばれる複輝石安山岩となりました。十六羅漢はこの溶岩に刻まれたものです。



江戸時代、荒海で遭難し命を失う漁師が多く、諸霊の供養と海上の安全を祈り、海禅寺第二十一代寛海和尚が発願、元治元年(1864)造佛を始めました。石工たちを指揮督励して五ヵ年、明治元年漸く22体の磨崖仏が完工しました。現在に至る140年余、海上の安全、漁師の幸せを願っていると伝えられています。十六羅漢の休憩所は天気であれば夕日の落日が素晴らしい所といわれ、サンセット十六羅漢と名付けられています。

今日のお宿は遊佐町の鳥海温泉・遊楽里です。部屋からは松林に続く砂浜が見え、荒海の高鳴りが聞こえる所ですこも天気であれば夕日の落日が素晴らしいのが売りです。吹浦で揚がった新鮮な魚介類や地元の野菜を使った美味しい夕食は、隣の日帰り湯「あぼん西浜」と遊楽里の二つの源泉かけ流しの温泉入浴と共に、旅の疲れを癒す最高の宿でありました。

今回の最終日は、おくのほそ道北限の旅、象潟を目指します。朝から強い雨の中、雨具に身を包みバスに乗車します。いよいよ山形県遊佐町から秋田県にかほ市の境、三崎公園(たぶ林)に到着です。本日は現地の案内人の先導で、熊笹を刈ったばかりの芭蕉さんが歩いたという古道を、足を取られな



がら進みます。江戸時代に建立されたといわれる大師堂や五輪塔を見学し、有耶無耶の関跡(雨の中を黙々と歩いたため印象に残っていない)を過ぎると秋田県に突入です。バスの待っている三崎茶屋を目指して急坂を下りますが足を取られて滑ることも多く現代人には難儀なコースでした。芭蕉さん達は健脚であったのでしょうね。右の写真は曾良の随行日記「十六日 吹浦を立。番所を過ると雨降出る。一り女鹿。是より難所、馬足不通。・・・」刻まれている石碑です。

さて、雨の中いよいよ芭蕉さんの最大目的地、象潟を目指してバスは進みます。

象潟町は2005年、由利郡の仁賀保町、金浦町と合併し平仮名の**にかほ市**に成りました。象潟の町に入り、句碑のある象潟駅前には徐行のみで通過、下車せず写真に撮れず残念。また案内人のお進めで洋菓子店に寄りお茶を頂く。皆さん沢山お菓子を買ったが、これも地元の経済に協力か？

### 【にかほ市象潟郷土資料館】

まずは象潟の勉強のため資料館の見学です。学芸員の齋藤一樹さん（にかほ市教育委員会文化財保護課長補佐）が秋田弁にて丁寧に説明してくれました。秋田県象潟と宮城県松島は歌枕の地であり、また両町共に西行、芭蕉が訪れ、おくのほそ道には「松島は笑ふが如く、象潟はうらむがごとし。寂しさに悲しみをくわえて、地勢魂をなやますに似り」と対照的に表しています。紅蓮尼の謂れもあり昭和62年8月1日、全国でも珍しい夫婦町となりました。芭蕉さんの訪ねた当時、象潟は大小百数十の島が浮かぶ入り江の景勝地でした。「芭蕉が象潟に着いた日は雨。風景は愁いを帯び、そば降る雨にねむの花が濡れている。そのもの哀しげな風情に、中国の悲劇の美女・西施を重ねたのが『象潟や 雨に西施が ねむの花』です。（斜線部はおくのほそ道北限の旅・齋藤一樹さんの文章より転載）。又資料館に、にかほ市出身の立志伝中の人物、TDK(株)（旧社名：東京電気化学工業(株)）の創立者・齋藤憲三氏より氏所蔵の古美術品が寄贈・協力があったそうです。



また、にかほ市出身の有名人には日本人で初めて南極大陸を探検した白瀬矗がいます。

また芭蕉さんが訪れた時の地名は塩越で、象潟は小島の浮かぶ入り江の名称でした。

### 【蛸満寺】

当時、蛸満寺は干満珠寺と称して、島に建立されていて芭蕉さんは舟で訪問しました。上陸地点には舟つなぎの石があります。寺に上がって、簾を上げ水面に浮かぶ九十九の島々、さらには鳥海山を仰ぎ見て感慨に耽っています。現在は隆起して水面は見られませんが、雨も降っており「象潟や雨に西施がねむの花」の気持ちになる場所でした。私たちは蛸満寺に上がり、住職が恭しく広げる芭蕉の真蹟懐紙を拝見しました。私には古文書は分りませんので本物ならずごいなという感想は致しました。外に出ると雨がどと降ったり、さーと止んだり日本海側は忙しい天気です。

蛸満寺の境内・舟つなぎの石付近より九十九島を水面があると想像での一枚、小雨ながら一瞬虹の出ている写真を紹介いたします。鳥海山は見えませんが、松の木が見える所は昔島であったと思われるところです。水田を水面と考えると良いのでしょうか。





宝暦十三年（1763）建立の雨に濡れる句碑  
 きさかたの雨や西施がねむの花  
 （蛸満寺 拝観のしおりより）



蛸満寺の西施像



能因島より望む昔は島であった九十九島

また蛸満寺の前庭には芭蕉の銅像、句碑、西施の銅像（？）が建立されています。句碑は大雨の中でしたので、句碑に水が滴りよい写真は撮れませんでした。国を救うために敵国に身を捧げた西施は中国四大美女と言われています。悲劇の美女の像に別れを告げ、私たちのバスは能因島（能因法師に因んだ名付けか？）に移動します。初夏のように水田に水が入っていれば昔の風景に似ているものと頭で想像して九十九島を眺め能因島を後にしました。

さて遅くなって腹ペコです。今日の昼食は道の駅・象潟「ねむの丘」で釜飯です。昼食中は窓を叩きつける豪雨で、海側にあるこの西施の像など見学など出来ない悪天候です。この4Fには日本海を眺めながら入れる展望温泉あり、大宴会場、レストラン、カラオケルームが完備し、一日たっぷり過ごせる施設です。みやげなどの買い物も済み、帰京のためバスは秋田空港に向かいます。空港には17時頃到着、庄内交通の高橋さんに別れを告げました。悪天のため羽田行きは何便かは欠航したそうですが、我々の便は定刻通りに離陸、かなり揺れましたが関東に近づくにつれ安定飛行で無事、羽田に着陸しました。次回は羽田より庄内空港へ出発です。

【文責・専務理事】